

# 地域別構想

### 9. 中央（東南部）地域

中央（東南部）地域は、旧小諸町の東南部に位置し、標高は約650～800mで、北東部は緩やかな南斜面となっており、南西部は糠塚山や千曲川沿いなどの起伏はあるものの、比較的平坦な地形の多い地域です。北寄りに蛇堀川、南端に繰矢川が流下し、西端の急傾斜地を経て千曲川に合流します。交通軸としては、中央を通るしなの鉄道、JR小海線を挟んで2つのエリアに大きく分かれ、北東部は国道18号、国道141号、旧北国街道が南北に縦貫し、これらをつなぐように県道峰の茶屋小諸線や東郷土西原線が東西に通っています。一方、南西部は、県道佐久小諸線、県道小諸中込線が幹線となっています。また、JR小海線の東小諸駅、乙女駅もあります。中央地域（旧小諸町）の中では比較的範囲の広い地域で、10区で形成されます。



市街地から続く国道18号、国道141号、旧北国街道の沿線には、商業施設をはじめ、医療施設、福祉施設、工場などの様々な事業所が連続して立地しています。それらを囲み、周辺部の主に北東と南東方向に住宅地が広がっており、小学校、総合福祉センター、高齢者福祉センター、人権センター、文化センター、公園、運動場などの公共施設も点在します。また、南の三岡地域から続くエリアは田園地帯となっています。

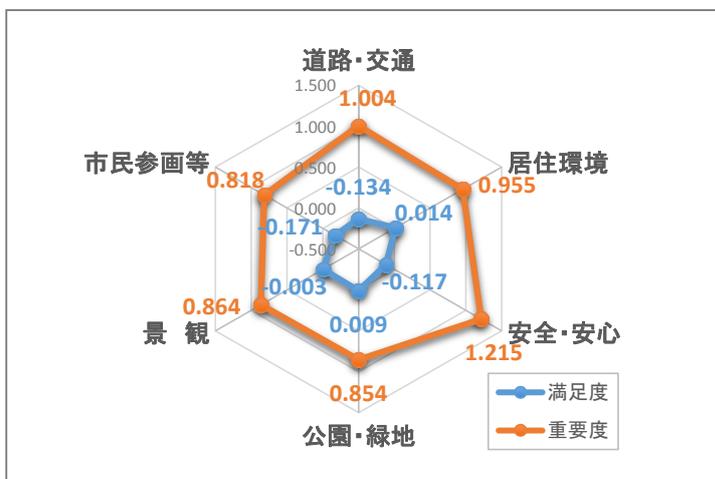
旧北国街道沿いの歴史的建造物、南城公園、乙女湖公園、平和公園など多くの公園、その他さまざまな公共施設が立地し、地形的にも多くの変化が見られるなど、多様性に富んだ地域です。

#### 9-1. アンケートからの要望・課題

他の地域に比べ、住民のまちづくりの満足度は低くなくまた重要度もそれほど高くない状況で、比較的バランスの良い地域といえます。

「医療・福祉の受けやすさ、行きやすさ」「近所での買い物の便利さ」などで一定の評価を得ていますが、「歩行者に対する安全性」「高齢・障がい者の生活しやすさ」などで満足度が低く、重要度が高くなっています。

重要度の分野では、「安全・安心」「道路・交通」の重要度が高い地域です。



地域	満足度	重要度
東南部	-0.059	0.961
東部	-0.306	1.032
中部	-0.198	1.033
西部	1.040	0.979
大里	-0.222	1.049
西小諸	-0.217	0.948
北大井	-0.176	0.962
川辺	-0.385	0.780
三岡	-0.156	0.973
南大井	-0.034	0.915
平均値	-0.167	0.948

住民アンケートによる現状の満足度及び将来の重要（期待）度結果を分野別にまとめ、ダイアグラム図に整理したものです。満足度、重要度の形が六角形であるほどバランスが取れており、突出している部分が、その地域の特色又は課題と読み取れます。

## 9-2. 地域の将来像

### 便利な都市環境と豊かな自然が共存する心豊かな魅力あふれるまち

- 歴史・文化や伝統を重んじ、世代間のふれあいや交流を広げます。
- 地域で情熱をもって、子どもたちの笑顔が広がる子育てに取り組みます。
- 賑わいと活力がみなぎる元気なまちを復活させます。

## 9-3. 地域の将来目標

#### ～都市環境の将来目標～

- ◆農地の有効活用や集積などをしながら、緑豊かな自然と、素晴らしい田園風景を残していく。
- ◆空き家対策を促進する。
- ◆生活道路の部分改良、日常の維持管理を強化する。
- ◆市街地や農地の湧水の活用し、昔ながらの自然溢れる姿を取り戻す（沢蟹・蛍の生育）。

#### ～生活環境の将来目標～

- ◆高齢者や子供たちにやさしい、バリアフリーで安全な生活道路の整備を推進する。
- ◆交通アクセスを考慮し、鉄道利用者の増加につながるような駅周辺の整備を推進する。
- ◆鉄道を跨ぐ接続道路を整備する。
- ◆「北国街道」を活かしたまちづくりを推進する。
- ◆避難場所を確保し、安心・安全な地域づくりを推進する。
- ◆子どもが遊べる場所を確保するため、公園等の整備をめざす。
- ◆ヴィオ跡地や小諸厚生総合病院移転後の跡地の利活用を検討する。

#### ～産業交流の将来目標～

- ◆農業を守り、二次・三次産業や宅地化とのバランスを図る。
- ◆まち歩きによる交流人口増をめざし、空き家・空き店舗を利活用する。
- ◆若い世代が働く場所を確保するために、景観に配慮した民間宅地開発、企業誘致を推進する。
- ◆農業体験を含めた滞在型観光を推進する。
- ◆6次産業の推進を図り、移動店舗を実施する。

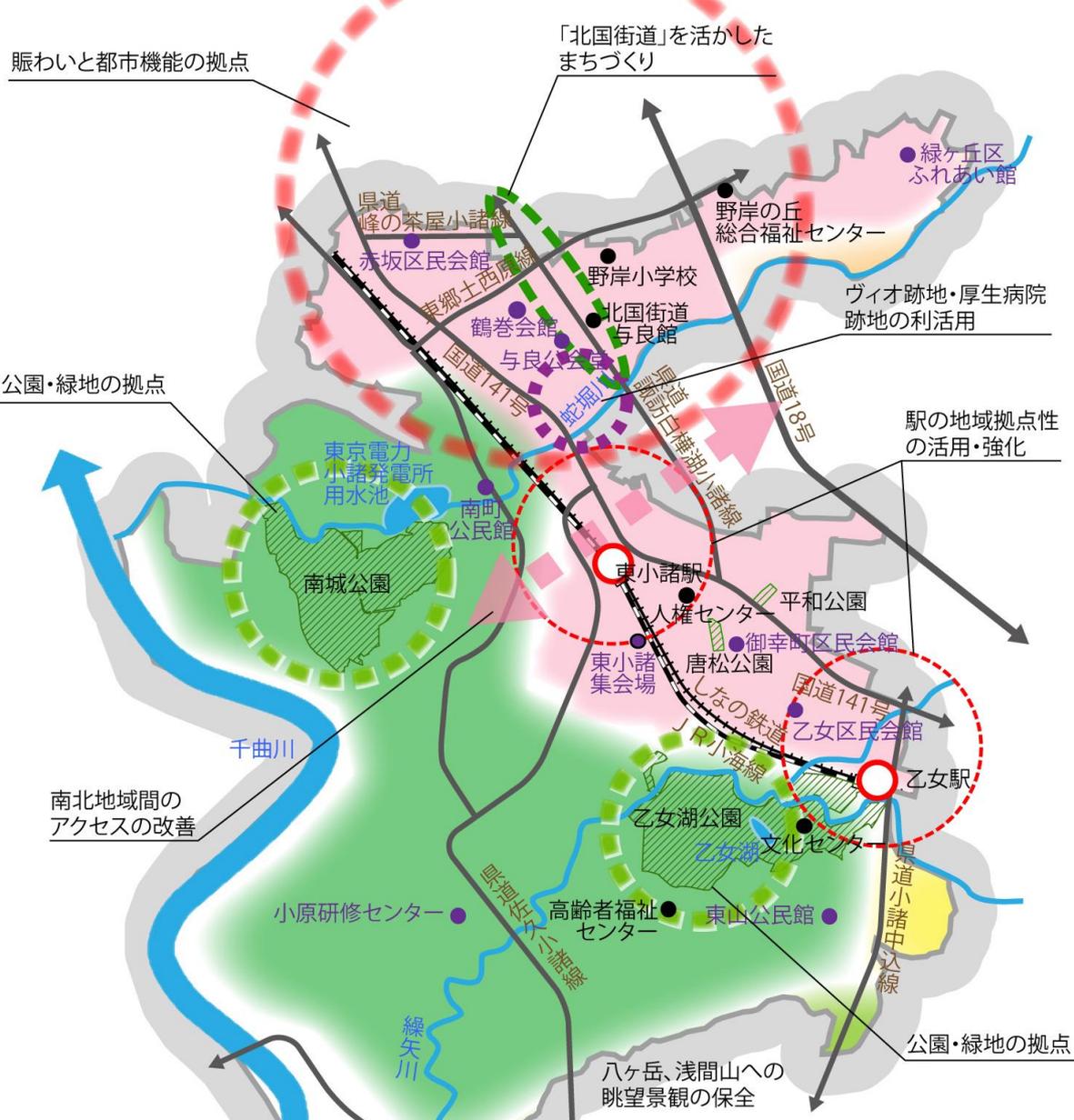
#### ～子育てなどの将来目標～

- ◆若い世代へのわかりやすい生活支援策を展開する（住宅地の整備、空き家をリフォームして、安価で販売や賃貸ができるシステムの構築）。
- ◆地域のコミュニティを活性化し、生活しやすく、子育てしやすい環境をつくる。

9-4. 地域のまちづくりイメージ

地域のまちづくりイメージ図（地域の意見を反映してイメージ化した図）

- 若い世代が働く場所を確保するために、民間宅地開発、企業誘致を図る
- 景観の優れた農地の保全
- 滞在型観光、6次産業の推進
- 安全な生活道路の整備 など



## 10. 中央（東部）地域

中央（東部）地域は、旧小諸町の東部に位置し、南の市街地から、北は高峰高原まで、大きな標高差のある約700～2,000mにかけて南北に細長く伸びる南斜面の地域です。東には蛇堀川、西には松井川が流れています。交通軸としては、南西端を横断する旧北国街道、国道18号を県道菱野筒井線（中央道路）がつなぎ、南北方向には県道峰の茶屋小諸線が縦貫し、途中、浅間サンラインが交差して横断しています。また、高峰高原に向ってチェリーパークラインが伸びています。国道18号を挟んで、南部の市街地寄りに4区、北部の郊外に3区の、合わせて7区で形成されています。



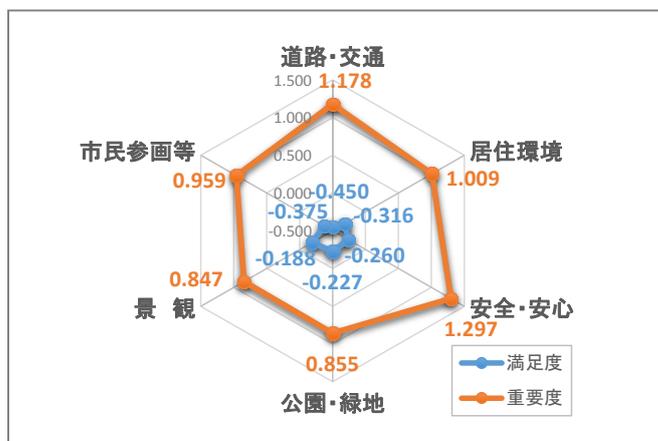
市街地の旧北国街道沿線、国道18号沿いは主に商業地となっており、国道18号周辺には、小学校、警察署、消防署、郵便局が立地しています。また、北に上り、標高800m地点に高等学校があり、さらに上って標高1,000m付近には総合グラウンドや医療機関、福祉施設などがあります。中腹部は広く住宅地が広がり、1,000m林道沿いの天池には高原野菜、隣接する松井では果樹園などの農地が広がっています。樹林地は上信越高原国立公園で、高峰高原までのチェリーパークラインは山岳観光道路となっており、周辺には観光施設が点在します。

国道18号北側の住居系用途地域を中心とした地域内中腹部は、宅地開発が進んでおり、優良な住宅地が大きく広がっています。また、標高2,000mの高峰高原や標高1,000mの総合グラウンドを中心に、近年の高地トレーニング構想の取組みも含め、交流拠点としての整備が図られています。

### 10-1. アンケートからの要望・課題

住民のまちづくりの満足度は、他の地域に比べ2番目に低く、特に安全・安心、道路・交通に関わる項目のまちづくりの重要度が高くなっています。

中心市街地から高原地域まで地域状況が異なっている地域で、市街地では生活道路や歩行者の安全対策が重視され、北部の高原地域は自然災害に対する備えが課題となっています。



地域	満足度	重要度
東南部	-0.059	0.961
東部	-0.306	1.032
中部	-0.198	1.033
西部	1.040	0.979
大里	-0.222	1.049
西小諸	-0.217	0.948
北大井	-0.176	0.962
川辺	-0.385	0.780
三岡	-0.156	0.973
南大井	-0.034	0.915

平均値 -0.167 0.948

住民アンケートによる現状の満足度及び将来の重要（期待）度結果を分野別にまとめ、ダイアグラム図に整理したものです。

満足度、重要度の形が六角形であるほどバランスが取れており、突出している部分が、その地域の特色又は課題と読み取れます。

10-2. 地域の将来像

子ども「すくすく」 若者「いきいき」 高齢者「はつらつ」

～「住んでみたい 住みつづけたいまち」をめざします～

10-3. 地域の将来目標

～都市環境の将来目標～

- ◆長期的な住宅政策に基づき、住みやすい住宅整備や市営住宅団地の有効活用がされている。
- ◆空き家、空き地について市と地区で情報が共有され、空き家バンク制度などにより活用されている。
- ◆危険家屋の撤去など安全対策が行える仕組みがある。
- ◆庭木や倒木処理における制度があり、環境美化が図られている。
- ◆豊で安全な水資源が確保されている。

～生活環境の将来目標～

- ◆コンパクトシティの形成（市役所・病院・郵便局・銀行・学校等を中心としたコンパクトシティの実現）
- ◆若い人が地域に住んで根付いている。
- ◆高齢者も地域の中で安心して生活できる。
- ◆景観が整っている（桜、紅葉や家並みの調和、歴史的な建造物の活用）。
- ◆健全なコミュニティが維持されており、住みやすい地域になっている（公民館を核としたコミュニティ活動の充実を図る）。

～産業交流の将来目標～

- ◆ショッピングモールのように少し歩けば全てが揃い、買い物を楽しむことができる場所がある（空き店舗を安く貸し、意欲ある商店主が魅力ある優良で専門的な商店をつくり、商店の連続性を持たせる）。
- ◆企業の留置・誘致等により働いて生活できる基盤が整っている。

～子育てなどの将来目標～

- ◆子ども達が安心安全に暮らせる。
- ◆仕事も子育ても安心してできる。

10-4. 地域のまちづくりイメージ

地域のまちづくりイメージ図（地域の意見を反映してイメージ化した図）

- 浅間山麓(水・緑)を活用
- 生活道路の改善
- 空き家の利活用促進
- 景観への配慮(桜、紅葉や家並みの調和・歴史的な建造物の活用)
- コンパクトシティの形成 など

	賑わいと都市機能の拠点		市街地ゾーン
	産業・工業活動の拠点		都市型居住ゾーン
	高地トレーニングの拠点		田園居住ゾーン
	自然・農業・観光振興の拠点		田園集落ゾーン
	公園・緑地の拠点		公園・緑地と居住ゾーン
			自然と産業協調ゾーン
			自然環境・景観ゾーン
			自然環境保全ゾーン



### 11. 中央(中部) 地域

中央(中部)地域は、旧小諸町の中央に位置する地域で、標高約650~750mにかけて南向きに傾斜し、その中を松井川と中沢川が流下しています。交通軸としては、南端の小諸駅から北方にかけ、国道141号、国道18号、上信越自動車道が順に東西へ走り、その間に、県道菱野筒井線、県道諏訪白樺湖小諸線(相生町通り)、旧北国街道(本町通り)、といった幹線的道路が通っています。駅周辺の市街地に位置する中心部の相生、大手、本町と、その周辺部の田町、六供の合計5区で形成されています。



中心部は、商店街を中心に、小諸駅、市役所、図書館、医療機関、金融機関、公園など公共・公共的施設が集積するとともに、古い町並みが残る北国街道、大手門、島崎藤村ゆかりの旧跡など歴史的資産も共存しています。また、北西に広がる周辺部は、住宅地を中心としています。歴史的な神社仏閣も並ぶほか、産業関連施設や高等学校、幼稚園、保育園などの教育・子育て施設も立地し、さらに農地も多く見られます。

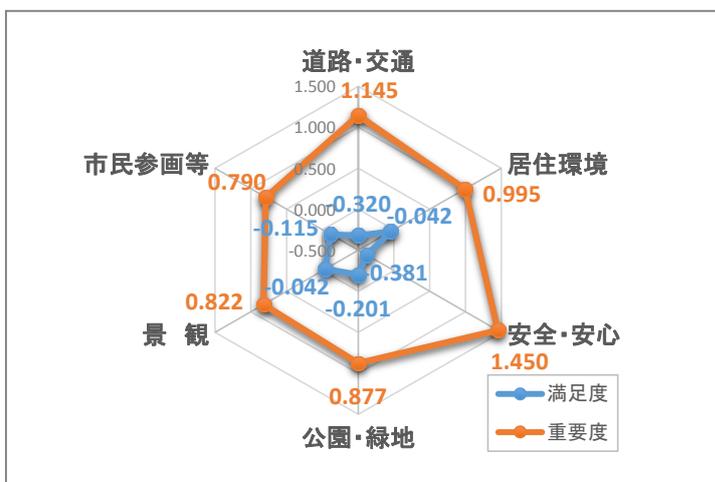
近年、中心部は低炭素まちづくり計画に基づく集約都市開発事業などの整備が進められており、また、周辺部では、国道18号沿いから北側の住居系用途地域を中心に、眺望の良い住宅地として、宅地開発が進んでいます。

#### 11-1. アンケートからの要望・課題

住民のまちづくりの満足度は、他の地域に比べ低く、特に安全・安心、道路・交通に関わる項目のまちづくりが求められています。

特に歩行者に対する安全、広域・市外への便利なアクセスが求められています。

市街地では生活道路や歩行者の安全対策が重視され、国道18号以北の地域は洪水や土砂災害に対する備えが課題となっています。



地域	満足度	重要度
東南部	-0.059	0.961
東 部	-0.306	1.032
中 部	-0.198	1.033
西 部	1.040	0.979
大 里	-0.222	1.049
西小諸	-0.217	0.948
北大井	-0.176	0.962
川 辺	-0.385	0.780
三 岡	-0.156	0.973
南大井	-0.034	0.915

平均値            -0.167      0.948

住民アンケートによる現状の満足度及び将来の重要(期待)度結果を分野別にまとめ、ダイアグラム図に整理したものです。

満足度、重要度の形が六角形であるほどバランスが取れており、突出している部分が、その地域の特色又は課題と読み取れます。

## 11-2. 地域の将来像

人と人が出会い、集い、交わり、賑わうまち  
歴史・文化を守り、伝え、きずなを育むまち

～ 住んでいる人も訪れる人も、地域の伝統を大切にし、交流を通じ、賑わうまちをめざします ～

## 11-3. 地域の将来目標

## ～都市環境の将来目標～

- ◆空き家・空き店舗の活用により定住者や営業店舗を増やし、賑わいを創出する。
- ◆コンパクトシティのまちづくりにより、人が集まるチャンスを活かす。
- ◆中部地区は利便性が高く、暮らしやすいことをPRし、街なかへの居住を促進する。  
(中部地区の利便性：交通の便が良い。商店・医療機関・公共施設・学校や幼稚園・保育園が近く、生活するのに便利。公園がある。農地が残り、自然景観が良い。)

## ～生活環境の将来目標～

- ◆街の中心部に快適な駐車場を整備し、人が集まりやすくなり、まちが賑わう。
- ◆住民も来訪者も安全でわかりやすい道があり、安心してまちを回遊できるようにする。
- ◆市外からの快適な導線の確保し、訪れやすい環境を整備する。
- ◆過去の災害を学び、伝え、防災・減災対策をする。

## ～産業交流の将来目標～

- ◆オープンカフェのような、住民も来訪者も気軽に人が集い交流できる場所を増やす。
- ◆来訪者が増える仕掛けをし、街なかを周遊し楽しめる魅力的なまちにする。  
(懐古園から街なかに人が流れる仕組み、小諸ならではの特産品づくり、イベントの開催)

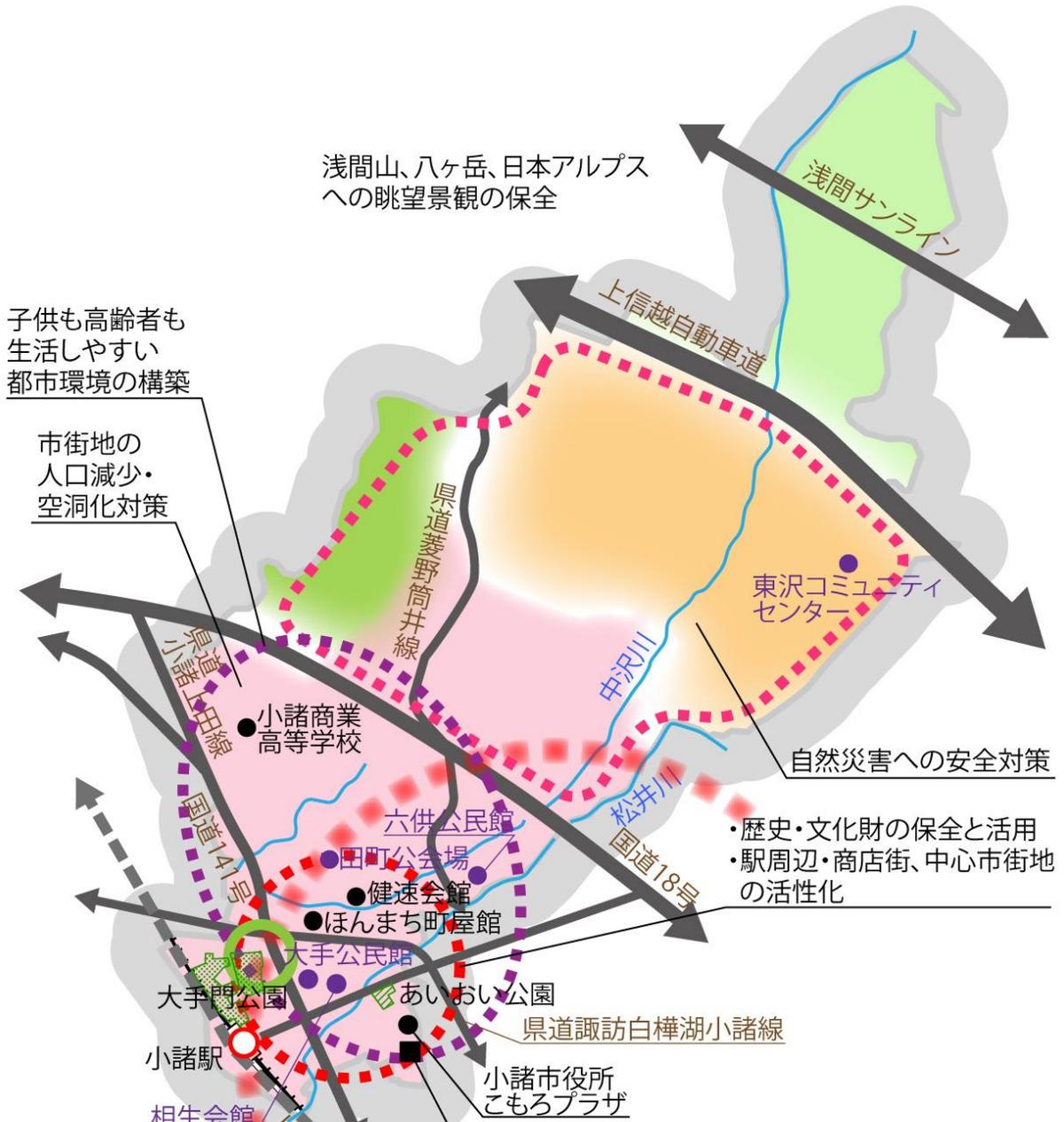
## ～子育てなどの将来目標～

- ◆街なかに若い家族が住んでいるまち、人口が安定し多世代が住んでいるまち、子どもが安心して遊べるまち、世代間交流が盛んなまちをめざす。
- ◆高齢者と若い世代や子どもが交流する機会をつくり、歴史・文化を学び、伝統を継承する。
- ◆子どもから高齢者まで、まちぐるみで健康づくりや生き生きと暮らせる取り組みを進める。

11-4. 地域のまちづくりイメージ

地域のまちづくりイメージ図（地域の意見を反映してイメージ化した図）

○市外からの快適な導線の確保、安心してまちを回遊できる整備 など



子供も高齢者も生活しやすい都市環境の構築

市街地の人口減少・空洞化対策

浅間山、八ヶ岳、日本アルプスへの眺望景観の保全

自然災害への安全対策

・歴史・文化財の保全と活用  
・駅周辺・商店街、中心市街地の活性化

賑わいと都市機能の拠点

	賑わいと都市機能の拠点		市街地ゾーン
	産業・工業活動の拠点		都市型居住ゾーン
	高地トレーニングの拠点		田園居住ゾーン
	自然・農業・観光振興の拠点		田園集落ゾーン
	公園・緑地の拠点		公園・緑地と居住ゾーン
			自然と産業協調ゾーン
			自然環境・景観ゾーン
			自然環境保全ゾーン

## 12. 中央（西部）地域

中央（西部）地域は、旧小諸町の西部に位置し、標高600～650mにかけて東西に細長く伸びた地域です。全体的に起伏に富んだ地形で、南端は松井川、中沢川、栃木川、花川、深沢川のそれぞれ最下流部となっており、標高600m以下の千曲川に向かって急傾斜地となっています。交通軸としては、国道18号、国道141号、インターアクセス道路が東西に延びる幹線となっており、千曲川を経て川辺方面に向かっては、東から順に、いずれも県道の八幡小諸線、諏訪白樺湖小諸線、立科小諸線が伸びています。東端で懐古園所在地の古城、旧北国街道沿いの市町、新町、そのさらに西側の両神、富士見平の5区で形成されています。



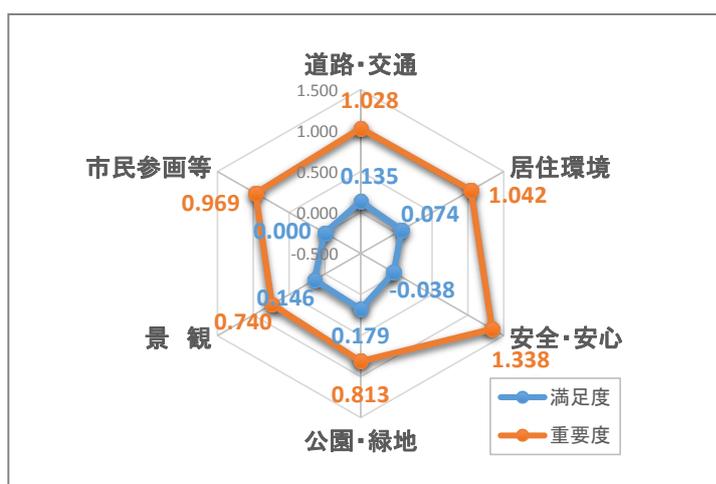
市の象徴的施設である懐古園をはじめ、旧北国街道沿いの本陣問屋場や脇本陣、複数の神社仏閣などの歴史的資産が多く残されており、懐古園周辺を中心に、観光施設も点在しています。国道18号、国道141号沿いには商業施設を中心とした事業所が立地し、インターアクセス道路沿いには中学校があつて、付近は梅林道路として管理されています。また、県道八幡小諸線の千曲川付近には市立総合体育館があります。西側の両神、富士見、押出地区は、主に住宅地です。

地域内は主に住宅地が広がっていますが、懐古園をはじめとした多くの文化施設及び歴史遺産も点在し、それらが混在する地域です。

### 12-1. アンケートからの要望・課題

住民のまちづくりの満足度は、最も高い地域で景観・公園緑地についての満足度が高い。特に安全・安心、道路・交通に関わる項目のまちづくりが求められています。

市街地では、自然災害に対する備え・生活道路や歩行者の安全対策が重視されています。



地域	満足度	重要度
東南部	-0.059	0.961
東部	-0.306	1.032
中部	-0.198	1.033
<b>西部</b>	<b>1.040</b>	<b>0.979</b>
大里	-0.222	1.049
西小諸	-0.217	0.948
北大井	-0.176	0.962
川辺	-0.385	0.780
三岡	-0.156	0.973
南大井	-0.034	0.915
平均値	-0.167	0.948

住民アンケートによる現状の満足度及び将来の重要（期待）度結果を分野別にまとめ、ダイヤグラム図に整理したものです。

満足度、重要度の形が六角形であるほどバランスが取れており、突出している部分が、その地域の特色又は課題と読み取れます。

## 12-2. 地域の将来像

### 世代を超え 歴史や文化を繋ぎ、支え合う、詩情豊かなまち

～歴史的遺産を生かし、伝統行事を守り、子どもから高齢者まで

元気に集う、魅力あふれるまちづくり～

## 12-3. 地域の将来目標

### ～都市環境の将来目標～

- ◆支援マップを作成し、地域での支え合いを進め、地域の自主防災組織づくりを行う。
- ◆空き家対策として、区内清掃時の周辺管理や除雪など、空き家周辺の維持管理を地域として対応していく。
- ◆観光資源や歴史的遺産に地区のお宝として目が向くように、周知や活用を行う取り組みを市と連携して進める。

### ～生活環境の将来目標～

- ◆生活道路の部分改良や維持管理を進める。
- ◆自主防災組織を組織し、支え合い、助け合いの体制を構築する。
- ◆情報発信や交通網の整備について、市と連携して課題の改善を図る。
- ◆自主的に街路樹や河川等の手入れをして、住みやすさの向上につなげる。
- ◆住宅用地や工業用地として活用可能なスペースを把握し、市と連携して情報発信を行う。
- ◆地区での見守り活動や防犯灯の設置を進め、安心安全なまちづくりを推進する。
- ◆既存施設の有効利用を図り、世代間交流のために活用できるような取り組みを進める。

### ～産業交流の将来目標～

- ◆新規の入区者が増えている区もあり、新規転入者が区に溶け込みやすい活動や雰囲気づくりを進める。
- ◆地域行事や各種団体の活動をもっと知る機会や世代を超えて参加できる活動を検討する。
- ◆地域のお宝を散策するマップを作成し、地域を知り、交流する機会を創設する。
- ◆農地の利活用や商工業の誘致の支援に地区として取り組み、市と連携して情報提供をしていく。

### ～子育てなどの将来目標～

- ◆区内清掃等を通じて、通学路や生活道路等の日常維持管理を強化する。
- ◆既存の公園や施設の維持管理をしながら、子どもたちが外でも遊べる環境整備を進める。



### 13. 北大井地域

北大井地域は、小諸市の東部に位置し、御代田町に隣接する、標高約700～1,000mにかけて南向きに傾斜した地域です。交通軸としては、東西に、国道18号、県道馬瀬口小諸線、旧県道小諸軽井沢線（現市道）、浅間サンラインなどが走り、南北に、国道141号に直結するグリーンロードが貫きます。地域全体の範囲が広く、全10地域のうち最多の15の区で形成されています。

地区の北東部を中心に、地区の代名詞ともなっている高原野菜地帯が広がり、国道18号沿線では、企業や店舗等が様々な事業活動を展開しています。また、南西部には、小学校、保育園、児童館、JA支所、郵便局、医院、薬局、福祉施設などが近接して立地しています。

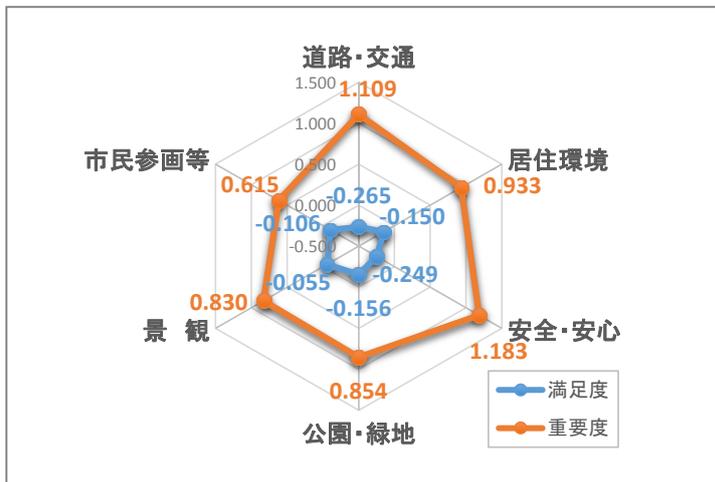
なお、特にグリーンロード周辺は、日当たりが良く、交通の利便性が高いことなどから、新たな住宅や店舗等の建設が進んでいます。



#### 13-1. アンケートからの要望・課題

住民のまちづくりの満足度は、他の地域に比べそれほど低くはないが、安全・安心、道路・交通に関わる項目のまちづくりが求められています。

特に歩行者の安全性、道路の通行しやすさバスの利用しやすさ、身近な子供の遊び場所などが求められています。



地域	満足度	重要度
東南部	-0.059	0.961
東部	-0.306	1.032
中部	-0.198	1.033
西部	1.040	0.979
大里	-0.222	1.049
西小諸	-0.217	0.948
<b>北大井</b>	<b>-0.176</b>	<b>0.962</b>
川辺	-0.385	0.780
三岡	-0.156	0.973
南大井	-0.034	0.915

平均値            -0.167    0.948

住民アンケートによる現状の満足度及び将来の重要（期待）度結果を分野別にまとめ、ダイアグラム図に整理したものです。

満足度、重要度の形が六角形であるほどバランスが取れており、突出している部分が、その地域の特色又は課題と読み取れます。

## 13-2. 地域の将来像

15区をつなぐは、人と地域のふれ合い・支え合い、みんなで輝く 北大井  
～浅間のふもと、高原野菜と豊かな自然や伝統文化が織りなす、心かよう郷～

## 13-3. 地域の将来目標

## ～都市環境の将来目標～

- ◆眺望や景観の良さ、豊かな自然環境などを、「北大井地区見どころマップ」「環境マップ」のようなかたちに「見える化」し、外に向けて積極的にPRするとともに、それらを守り、活かし、次の世代へつなげる取組みを推進する。
- ◆子どもたちの環境美化活動を地域全体で支援し、ポイ捨て等を抑止する。
- ◆高速道路の側道等の美化やグリーンロードのニシキギの手入れなどを、地域と行政とが役割分担し、協働することにより、環境美化・環境保全活動をより効果的・効率的なものとする。
- ◆雑草の処理やごみ拾いにとどまらず、沿道に花を植えるなど、より積極的・能動的な環境美化活動に発展させる。
- ◆遊休荒廃地についての情報を地区内で共有し、営農継続や有効利用等つなげる、また、空き家についての情報を一元化し、仲介するなどにより、Iターン・Uターンなど移住・定住の促進につなげる。

## ～生活環境の将来目標～

- ◆集会施設は災害時の避難場所でもあり、消防団詰所とともに、老朽化・耐震強度不足の対策を早急に進める。
- ◆住みやすい環境であるとともに、佐久平へのアクセスが良いことなどを背景に、インフラ整備や計画的な土地利用を進める。
- ◆空き家対策やインフラ整備は、住民の合意のもと優先順位付けを行った上で、行政と地域の協働により取り組む。

## ～産業交流の将来目標～

- ◆農業の担い手・後継者を確保し遊休荒廃地の解消に役立てる。
- ◆スローライフを志向する人々や都市住民等に向けて発信し、「農」を活用した移住・定住促進の受け皿となる仕組みをつくる
- ◆地区内の活用可能な土地へ研究所等の誘致を進める。

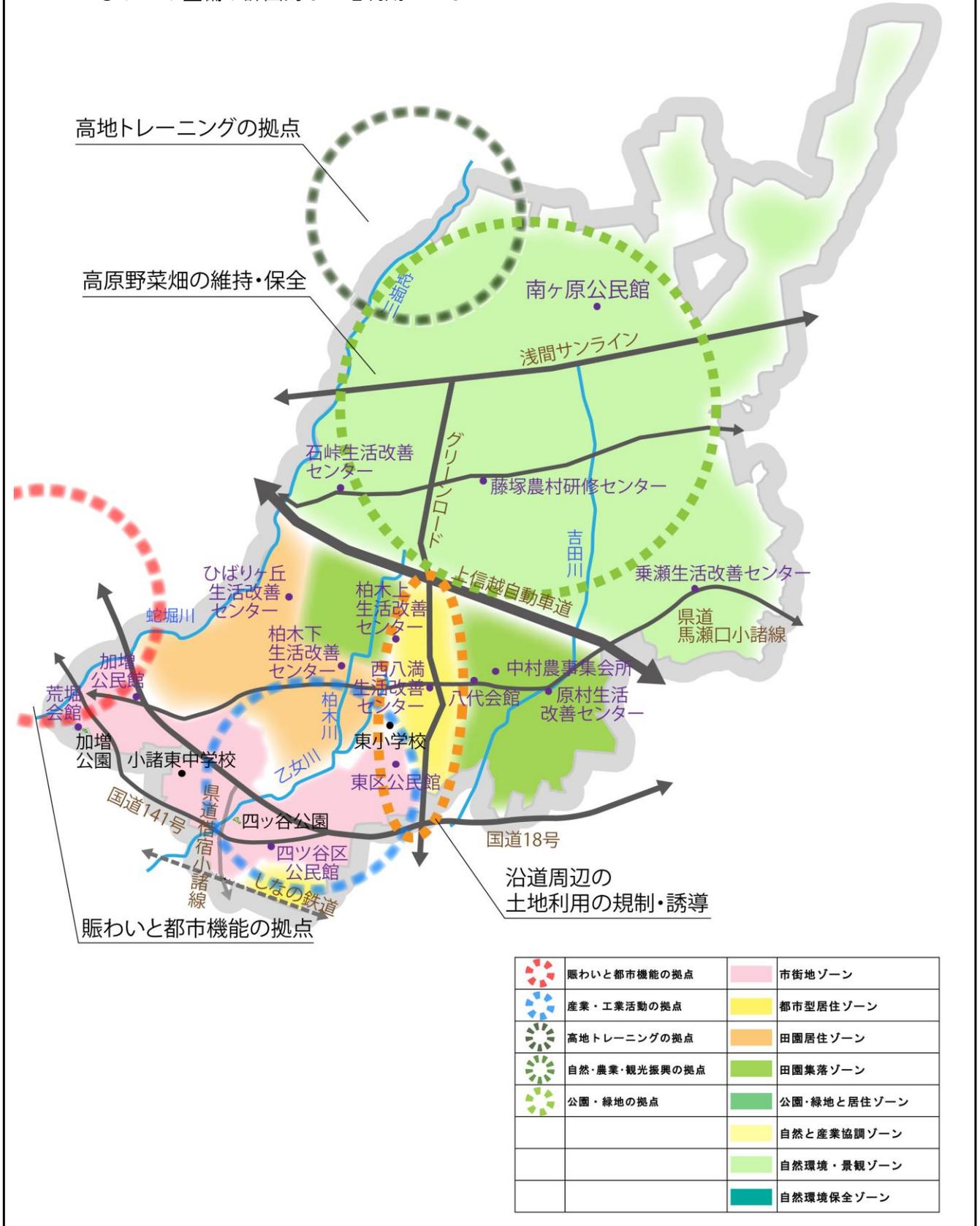
## ～子育てなどの将来目標～

- ◆世代間の交流活動をさらに拡大するとともに、伝統行事は時代に合わせる工夫もしながら、継続・存続を図る。
- ◆子供たちの遊び場として、学校の体育館や校庭を開放するほか、遊休荒廃地の活用なども検討し、公園や広場の維持管理は地域で協力して行う。

13-4. 地域のまちづくりイメージ

地域のまちづくりイメージ図（地域の意見を反映してイメージ化した図）

- 眺望や景観の活用・保全
- 「農」を活用した移住・定住
- インフラ整備や計画的な土地利用 など



	賑わいと都市機能の拠点		市街地ゾーン
	産業・工業活動の拠点		都市型居住ゾーン
	高地トレーニングの拠点		田園居住ゾーン
	自然・農業・観光振興の拠点		田園集落ゾーン
	公園・緑地の拠点		公園・緑地と居住ゾーン
			自然と産業協調ゾーン
			自然環境・景観ゾーン
			自然環境保全ゾーン

## 14. 大里地域

大里地域は、小諸市の北西部に位置し、北部の上信越高原国立公園を挟んで東御市と隣接しています。標高約650～2,000mにわたって南北に大きく伸び、南向きに傾斜した地域で、東端に栃木川、西端に深沢川が流れ、地域内は花川が流下しています。交通軸としては、東西に上信越自動車道、国道18号、浅間サンラインが走り、これらをつなぐように、県道小諸上田線やインターアクセス道路が南北に通っています。国道18号付近の諸、西原と、上信越自動車道より北側の菱野、滝原、後平の5区で形成されています。



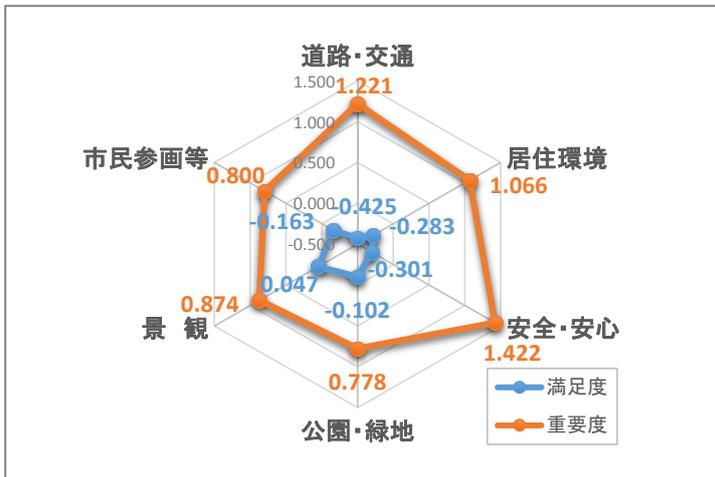
国道18号沿線は商業活動が活発で、比較的大規模な店舗が立地しています。また、浅間サンライン沿いは田園など農地が広がり、棚田百選に選ばれている地区もあります。また、交通の要所となる上信越自動車道小諸インターチェンジが地域内にあり、その近傍には、ワイン工場や高原美術館もあります。

温泉、美術館、ワイン工場、ゴルフ場など、交流の拠点となる施設が多い地域です。

### 14-1. アンケートからの要望・課題

住民のまちづくりの満足度は、他の地域に比べ低い方で、特に安全・安心、道路・交通に関わる項目のまちづくりが求められています。

地域は高原地域で、自然災害に対する安全性の確保、優れた景観・歴文化資源の維持・保全が主要な課題として挙げられます。



地域	満足度	重要度
東南部	-0.059	0.961
東部	-0.306	1.032
中部	-0.198	1.033
西部	1.040	0.979
<b>大里</b>	<b>-0.222</b>	<b>1.049</b>
西小諸	-0.217	0.948
北大井	-0.176	0.962
川辺	-0.385	0.780
三岡	-0.156	0.973
南大井	-0.034	0.915

平均値 -0.167 0.948

住民アンケートによる現状の満足度及び将来の重要（期待）度結果を分野別にまとめ、ダイアグラム図に整理したものです。

満足度、重要度の形が六角形であるほどバランスが取れており、突出している部分が、その地域の特色又は課題と読み取れます。

## 14-2. 地域の将来像

### 大里地区は、学びと交流の郷づくり

～地域全体（自然・施設・ひと）が「大里劇場」「大里博物館」「大里学校」～

- 「大里劇場」・・・大里地区は、あらゆる場面が劇場。生活も劇場・住む人は楽しく演じるキャスト。  
訪れる人は劇場で体験もできる参加者。人が集まる産業拠点が一番大きな劇場。  
農業も楽しみ・楽しませる劇場。
- 「大里博物館」・・・大里地区は、地区そのものが博物館。歴史や見どころ、活躍するひとのあふれる郷。  
展示品は地域の宝、地域の力で磨き上げ。  
農業の醸し出す風情・農業から生み出される食は芸術品。
- 「大里学校」・・・大里地区は、学びの場そのもの。地域ぐるみの子育てで子どもを大切に育てる子育て家庭にやさしい郷。「学び」は大人になるまで楽しみながら続きます。訪れる人も見て・体験して、教える側になることも・・・

## 14-3. 地域の将来目標

### ～都市環境の将来目標～

- ◆遊休農地の活用が図れるような組織の設立をめざす。
- ◆眺望を含めた自然環境の水明ブランドとしての活用や、空き家に農地や農業体験等の付加価値をつける等、来訪者との交流が深めて活性化を図る。

### ～生活環境の将来目標～

- ◆地域内の通学路等が日常的に安全確認でき、応急的な対応を迅速にして子ども等の安全が確保できる地区をめざす。

### ～産業交流の将来目標～

- ◆良好な農村景観と多様な農産物が生産できる環境、マンズワイン、飯綱山公園を活用した着地型観光、体験交流を促進する。
- ◆着地型観光、体験交流のゲートウェイ機能を持ち、インターチェンジのポテンシャルを活かせる農業の6次産業拠点を中心に活性化をめざす。
- ◆地区に雇用の場と定住人口を増加させるため、インター小諸工業団地に企業を誘致する。

### ～子育てなどの将来目標～

- ◆地区の歴史、文化、伝統伝承の学習会等を開催し、地区内での世代間のコミュニケーションを高める。また、小学校と地区とが一体となることによって、子どもや子育て家庭にやさしい地区をつくり、子育て世代が集まる地区をめざす。

14-4. 地域のまちづくりイメージ

地域のまちづくりイメージ図（地域の意見を反映してイメージ化した図）

- 農地、森林の活用・保全
- 6次産業や農業体験など着地型観光による交流促進、企業誘致
- 生活道路の整備、改善 など



	賑わいと都市機能の拠点		市街地ゾーン
	産業・工業活動の拠点		都市型居住ゾーン
	高地トレーニングの拠点		田園居住ゾーン
	自然・農業・観光振興の拠点		田園集落ゾーン
	公園・緑地の拠点		公園・緑地と居住ゾーン
			自然と産業協調ゾーン
			自然環境・景観ゾーン
			自然環境保全ゾーン

### 15. 川辺地域

川辺地域は、小諸市の千曲川西岸部に位置し、東御市及び佐久市に隣接しています。標高は約550～800mで、千曲川からの北向きの急傾斜地と、その上部の御牧ヶ原台地に大きく分けられ、御牧ヶ原台地には多くのため池があります。交通軸としては、県道諏訪白樺湖小諸線、県道立科小諸線、県道八幡小諸線、千曲ビューラインなどが主要幹線です。千曲川沿いと山間には8つの区があり、御牧ヶ原台地の2区と合わせ10区で形成されています。



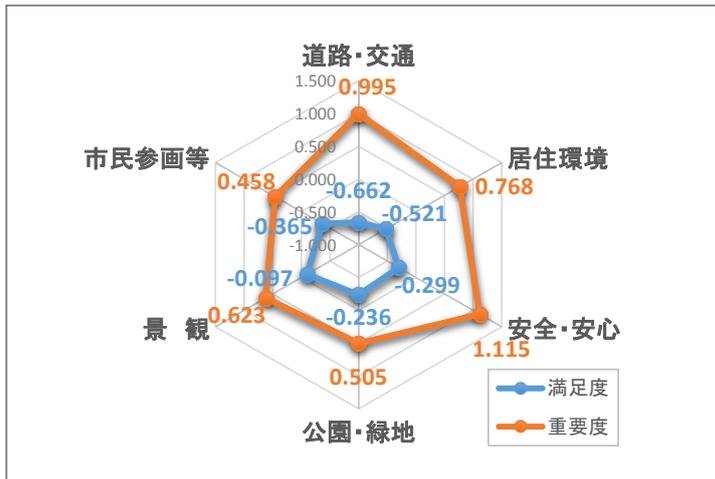
千曲川沿いや布引観音、御牧ヶ原台地から望む千曲川や浅間山など、傾斜地や台地からなる地形ならではの眺望の良さには定評があります。また、地域内の拠点施設としては、農業大学、温泉施設、いちご園、自然体験活動の研修施設などが点在しています。

御牧ヶ原台地の粘土地を活かした優良農地が多いのが特徴で、主な生産物であるお米や白土馬鈴薯などは、ブランド化が図られています。

#### 15-1. アンケートからの要望・課題

地域の自然環境から「田園景観の美しさ」の満足度、重要度が高くなっています。

一方で、「医療・福祉施設への行きやすさ」「避難場所・避難路の分かりやすさ」「土砂災害・風水害対策」などの重要度が高くなっています。



地域	満足度	重要度
東南部	-0.059	0.961
東部	-0.306	1.032
中部	-0.198	1.033
西部	1.040	0.979
大里	-0.222	1.049
西小諸	-0.217	0.948
北大井	-0.176	0.962
川辺	-0.385	0.780
三岡	-0.156	0.973
南大井	-0.034	0.915

平均値 -0.167 0.948

住民アンケートによる現状の満足度及び将来の重要（期待）度結果を分野別にまとめ、ダイヤグラム図に整理したものです。満足度、重要度の形が六角形であるほどバランスが取れており、突出している部分が、その地域の特色又は課題と読み取れます。

## 15-2. 地域の将来像

## 子どもたちの笑顔が輝き、暮らす人々の笑い声が響く郷

豊かな自然環境を保全しながら、企業誘致・定住促進を進め、将来に渡って子供たちがすくすくと育ち、地域に暮らす人々の笑い声が響く郷をめざします。

## 15-3. 地域の将来目標

## ～都市環境の将来目標～

- ◆区内清掃の活発化によって、不法投棄しづらい環境を確保する。
- ◆木質燃料利用者による伐採をシステム化し、山林所有者と木質燃料利用者双方のメリットを確保する。
- ◆地域の宝物の案内看板等を設置し、各区適切な管理を行う。
- ◆全ての開発は自然環境に配慮して行う。

## ～生活環境の将来目標～

- ◆「確認申請」が必要な地区とし、安全で安心な生活基盤を整備する。

## ～産業交流の将来目標～

- ◆適地適作、6次産業化の推進等により「儲かる農業」をめざす。
- ◆低廉な地価を活用した道路・水路等の社会資本整備により、企業誘致等を推進し、雇用の拡大や定住人口の増加を図る。
- ◆豊かな自然や景観を活用して都市農村交流を推進し、魅力ある地域をめざす。

## ～子育てなどの将来目標～

- ◆Iターン、Uターン等による移住定住を促進することにより、人口減少に歯止めをかけ、若い世代や子どもたちの笑い声が絶えない地域をめざす。

15-4. 地域のまちづくりイメージ

地域のまちづくりイメージ図（地域の意見を反映してイメージ化した図）

- 生活基盤の整備
- 企業誘致
- 移住定住の促進 など



	賑わいと都市機能の拠点		市街地ゾーン
	産業・工業活動の拠点		都市型居住ゾーン
	高地トレーニングの拠点		田園居住ゾーン
	自然・農業・観光振興の拠点		田園集落ゾーン
	公園・緑地の拠点		公園・緑地と居住ゾーン
			自然と産業協調ゾーン
			自然環境・景観ゾーン
			自然環境保全ゾーン

## 16. 三岡地域

三岡地域は、小諸市の南部に位置し、佐久市に隣接する、標高約650～700m程度の比較的平坦な地域です。交通軸としては、南北に県道佐久小諸線、県道小諸中込線、東西に県道耳取三岡停車場線、千曲ビューラインが走っているほか、東にはJR小海線が通り、三岡駅と美里駅の2つの駅があります。また、上流の南大井地区から続く繰矢川、皿掛川、湧玉川といった河川が東西に流下し、西端で千曲川に合流しています。いずれも比較的区域的広い森山、耳取、市の3区で形成されています。

拠点施設として、三岡駅周辺には企業、自動車学校が立地し、美里駅から耳取周辺には工場、保育園、JA支所、郵便局、診療所、福祉施設が点在します。歴史的に桃やリンゴの果樹栽培が盛んで、現在でも多くの果樹園や直売所があり、圃場整備された水田などの農地も広がっています。また、古くからの集落内には旧家の家並みが残り、歴史的な建造物も見られます。

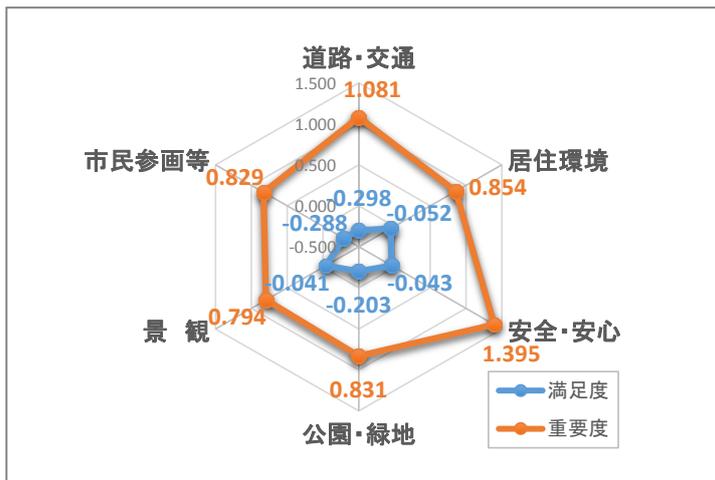
近年開発が進む佐久平駅に近いことから、主な生活圏は佐久市となっており、宅地開発も進められて、地域内の人口は増加しています。



### 16-1. アンケートからの要望・課題

「医療・福祉施設への行きやすさ」「土砂災害・風水害対策」「火災、延焼に対する安全性」などが満足度及び重要度が高くなっています。

一方で、「道路の通行しやすさ」「歩行者に対する安全性」「身近にある子どもの遊び場」など満足度が低く、重要度が高くなっています。



地域	満足度	重要度
東南部	-0.059	0.961
東部	-0.306	1.032
中部	-0.198	1.033
西部	1.040	0.979
大里	-0.222	1.049
西小諸	-0.217	0.948
北大井	-0.176	0.962
川辺	-0.385	0.780
三岡	-0.156	0.973
南大井	-0.034	0.915
平均値	-0.167	0.948

住民アンケートによる現状の満足度及び将来の重要（期待）度結果を分野別にまとめ、ダイヤグラム図に整理したものです。

満足度、重要度の形が六角形であるほどバランスが取れており、突出している部分が、その地域の特色又は課題と読み取れます。

## 16-2. 地域の将来像

### 人の交流が促進するまち

～子どもからお年寄りまでが、安全で安心して暮らせる地域をめざします～

## 16-3. 地域の将来目標

### ～都市環境の将来目標～

- ◆地域の力で蛍が生息できる池の復活をめざすとともに、農業用水路等の清掃や環境整備を行い、観光資源や環境教育の素材として活用する。
- ◆地域住民自らの手による地域内の清掃活動を行い、今まで以上に環境美化活動に取り組み、地域の豊かな自然環境を守っていく。

### ～生活環境の将来目標～

- ◆防犯灯の整備を進め、安全で安心な地域をめざす。
- ◆佐久市へのアクセスのための道路網の整備を行い、地域を佐久市のベッドタウンとして位置付け、定住人口の増加をめざす。
- ◆温暖な気候と平坦な地形をアピールし、空き家を利用した定住人口の増加をめざす。
- ◆急傾斜の崖に転落防止の柵や落下防止の啓発看板を整備し、危険箇所をなくす。

### ～産業交流の将来目標～

- ◆三岡地区の観光スポットとして見晴台などの整備を行い、観光客の受け入れと地元特産品のPRを促進することにより、地域の活性化をめざす。
- ◆地元企業との交流会を開催し、災害発生時における企業保有資材の提供など、地域と企業との協力関係の構築をめざす。

### ～子育てなどの将来目標～

- ◆通学路の歩道改良整備を進め、安全な通学環境を確保する。
- ◆遊園地等の整備や、美里保育園の休日の園庭解放により、子どもたちが安全で安心して遊ぶことができる環境を確保する。

16-4. 地域のまちづくりイメージ

地域のまちづくりイメージ図（地域の意見を反映してイメージ化した図）

- 平坦な地形をアピールし、定住人口の増加をめざす
- アクセス向上のための道路網の整備
- 地域住民、地元企業、観光客との交流 など



	賑わいと都市機能の拠点		市街地ゾーン
	産業・工業活動の拠点		都市型居住ゾーン
	高地トレーニングの拠点		田園居住ゾーン
	自然・農業・観光振興の拠点		田園集落ゾーン
	公園・緑地の拠点		公園・緑地と居住ゾーン
			自然と産業協調ゾーン
			自然環境・景観ゾーン
			自然環境保全ゾーン

### 17. 南大井地域

南大井地域は、小諸市の東部に位置し、佐久市及び御代田町に隣接する、標高約700～750mの比較的平坦な地域で、東西に繰矢川、皿掛川、湧玉川といった河川が流下しています。交通軸としては、北大井地域と接する国道18号から、佐久市に接する中部横断自動車道まで、南北に国道141号が縦貫し、南端で中部横断自動車道佐久北インターチェンジと接続します。また、国道141号と交差して、千曲ビューラインや県道借宿小諸線が東西に走り、北部を通るしなの鉄道には平原駅があります。北から順に平原、一ツ谷、御影、谷地原、和田の5区で形成されています。



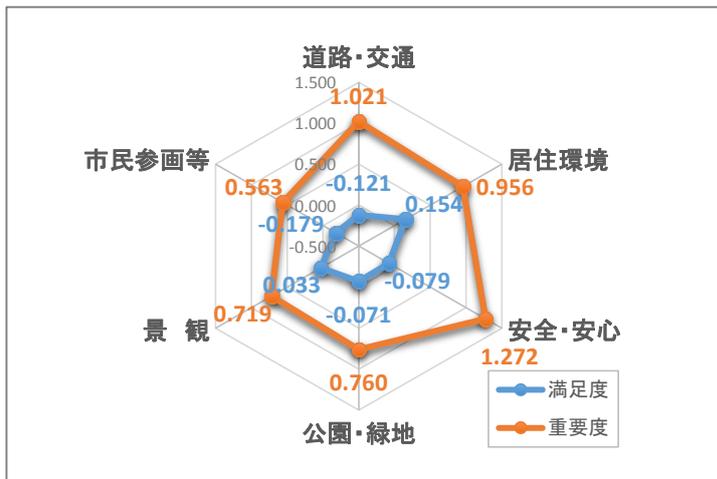
国道141号沿いは、大型商業施設や住宅の開発が急速に進み、工業系用途地域である和田工業団地内には多くの工場が集積しています。一方で、地域内を流れる河川沿いや東寄りの地区は田畑が広がり、ブロッコリーやほうれん草などの生産が盛んです。また、平原の旧北国街道、天領の里、御影用水など歴史文化が残る地域でもあります。

近年開発が進む佐久平駅や上信越自動車道など、高速交通網へのアクセスが極めて良好な地域であり、市内でも最も人口が増加し、開発も進んでいる地域です。

#### 17-1. アンケートからの要望・課題

住民のまちづくりの満足度は、他の地域に比べ高い中、安全・安心、道路・交通に関わる項目のまちづくりが求められています。

特に歩行者の安全性、道路の通行しやすさ、避難場所・避難経路の解りやすさ、身近な子供の遊び場所などが求められている。



地域	満足度	重要度
東南部	-0.059	0.961
東部	-0.306	1.032
中部	-0.198	1.033
西部	1.040	0.979
大里	-0.222	1.049
西小諸	-0.217	0.948
北大井	-0.176	0.962
川辺	-0.385	0.780
三岡	-0.156	0.973
<b>南大井</b>	<b>-0.034</b>	<b>0.915</b>
平均値	-0.167	0.948

住民アンケートによる現状の満足度及び将来の重要（期待）度結果を分野別にまとめ、ダイアグラム図に整理したものです。満足度、重要度の形が六角形であるほどバランスが取れており、突出している部分が、その地域の特色又は課題と読み取れます。

## 17-2. 地域の将来像

**農業・工業・商業がバランスよく成長し、人々でにぎわうまち**

～地理的条件・自然環境を活かし、住んでみたい・住んでよかったまちをめざします～

## 17-3. 地域の将来目標

## ～都市環境の将来目標～

- ◆計画的に開発が進み、住と産業のバランスがとれた地域をめざす。
- ◆公共交通が充実し、買い物や通院に便利になっている地域をめざす。
- ◆自主防災組織の充実が図られた、安全・安心な地域をめざす。
- ◆隣接する市町との広域連携を図る。

## ～生活環境の将来目標～

- ◆インフラ整備が進んでいる地域をめざす。
- ◆生活道路などが整備されている地域をめざす。
- ◆駅駐車場の整備を図る。
- ◆若者中心の地域コミュニティが形成され、老若男女みんなが元気で、会話が響きあう活気あふれる地域をめざす。

## ～産業交流の将来目標～

- ◆優良農地が保全されている地域をめざす。
- ◆農業・工業・商業がバランスよく成長した賑わいのある地域をめざす。
- ◆6次産業など、若者が魅力ある農業に意欲的に取り組んでいる地域をめざす。

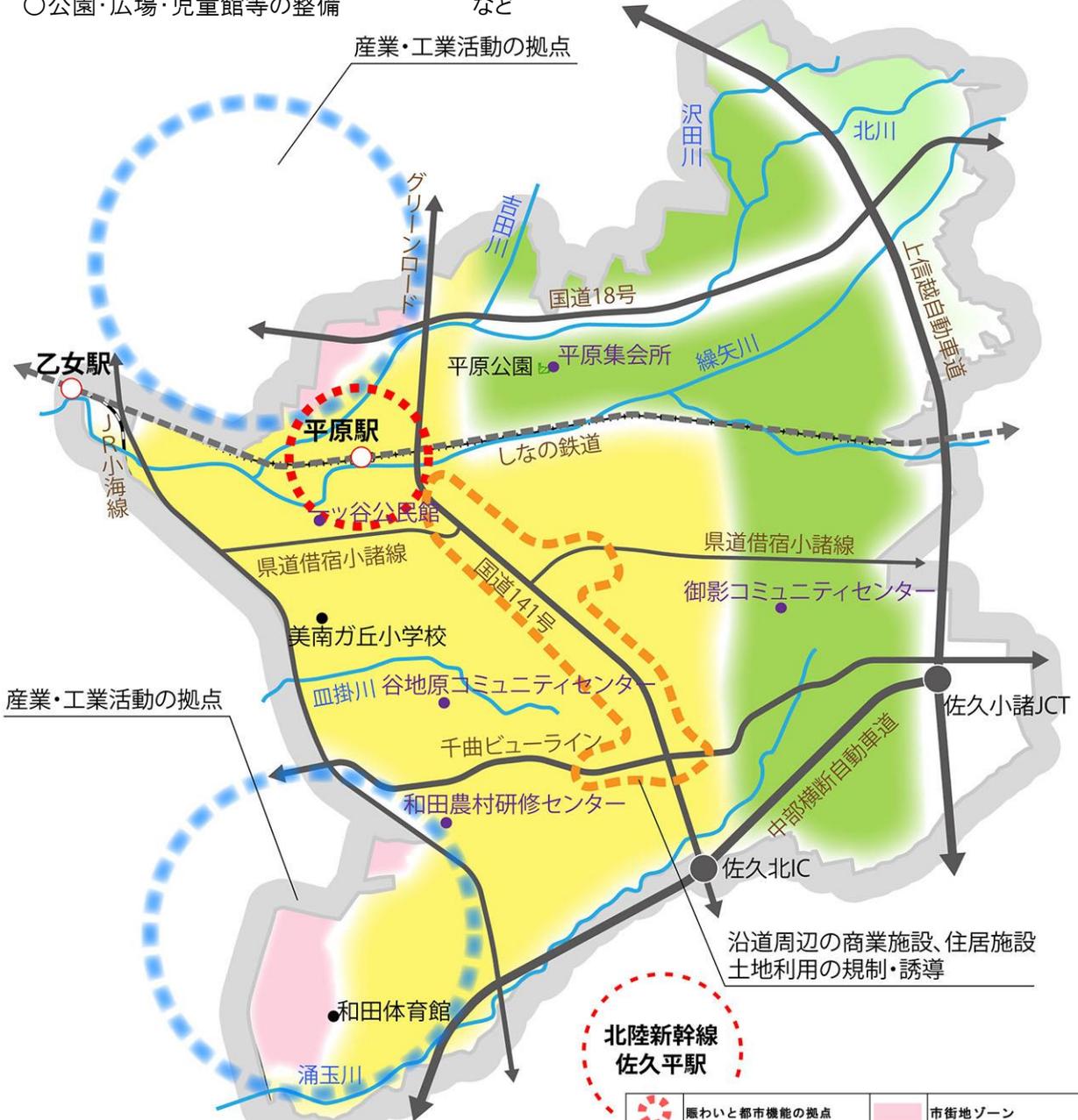
## ～子育てなどの将来目標～

- ◆公園・広場・児童館等が整備され、子育て環境が充実している地域をめざす。
- ◆病児・病後児保育の整っている地域をめざす。
- ◆安全・安心な通学路が整備されている地域をめざす。
- ◆地域が一体となって子育てに取り組むという意識の共有を図る。
- ◆伝統文化が継承され、行事を通じて、子どもと大人のつながりが保たれ、笑顔が絶えない地域をめざす。

17-4. 地域のまちづくりイメージ

地域のまちづくりイメージ図（地域の意見を反映してイメージ化した図）

- 交通の拠点に隣接し、平坦な地形である地理的特性を活かす
- 若者中心の地域コミュニティの形成
- 優良農地の保全と農業の6次産業化の推進
- 農業・工業・商業のバランスがとれた地域
- 計画的なインフラ整備（幹線道路、生活道路、通学路の安全性の確保・改善）
- 公園・広場・児童館等の整備 など



北陸新幹線  
佐久平駅

	賑わいと都市機能の拠点		市街地ゾーン
	産業・工業活動の拠点		都市型居住ゾーン
	高地トレーニングの拠点		田園居住ゾーン
	自然・農業・観光振興の拠点		田園集落ゾーン
	公園・緑地の拠点		公園・緑地と居住ゾーン
			自然と産業協調ゾーン
			自然環境・景観ゾーン
			自然環境保全ゾーン

## 18. 西小諸地域

西小諸地域は、小諸市の西部に位置し、東御市に隣接する、標高約700～1,000mにかけて南向きに傾斜した地域です。北は上信越高原国立公園の山林で、南には千曲川が流れ、その間を深沢川が流下しています。旧村部の中では比較的面积の小さな地域で、芝生田、井子、糠地の3区で形成されます。交通軸として、東西には国道18号、浅間サンラインといった幹線が走っていますが、南北をつなぐ路線はいずれも狭隘です。

国道18号沿いには商業施設、保育園、企業などが立地し、浅間サンライン沿いは田園が広がります。また、旧北国街道や寺ノ浦遺跡等の歴史的資産が残る地域でもあります。

糠地地区は昭和の時代から民宿村として有名で、複数の民宿が存在するほか、近年では、遊歩道が整備された深沢溪谷や、グリーン・ツーリズムの拠点施設「みはらし交流館」なども加わり、北部を中心に交流の拠点多く点在する地域になっています。



### 18-1. アンケートからの要望・課題

住民のまちづくりの満足度は、他の地域に比べ3番目に低い。安全・安心、道路・交通に関わる項目のまちづくりが求められており、特に歩行者の安全性、道路の通行のしやすさ通院・通学・買い物の行きやすさ・便利さ、子ども・子育て世代の生活のしやすさなどの改善・向上要望となっています。



地域	満足度	重要度
東南部	-0.059	0.961
東部	-0.306	1.032
中部	-0.198	1.033
西部	1.040	0.979
大里	-0.222	1.049
西小諸	-0.217	0.948
北大井	-0.176	0.962
川辺	-0.385	0.780
三岡	-0.156	0.973
南大井	-0.034	0.915

平均値 -0.167 0.948

住民アンケートによる現状の満足度及び将来の重要（期待）度結果を分野別にまとめ、ダイアグラム図に整理したものです。

満足度、重要度の形が六角形であるほどバランスが取れており、突出している部分が、その地域の特色又は課題と読み取れます。

18-2. 地域の将来像

素晴らしい自然景観・田園風景が残り、  
地域の人と人がつながり合う、笑顔あふれる地域

～素晴らしい景観を残しながら、コミュニティが充実した、  
子どもたちの笑い声が聞こえるまちをめざします～

18-3. 地域の将来目標

～都市環境の将来目標～

- ◆農地を有効活用しながら、棚田を保全し、緑豊かな自然と、素晴らしい田園風景をみんなで残していく。

～生活環境の将来目標～

- ◆地域の交流や地域の発展のために、三区を繋ぐ南北の幹線道路の整備を検討する。
- ◆みはらし交流館の活用。

～産業交流の将来目標～

- ◆標高差を活用した農産物を研究し、就農者の増加を図り、遊休地・荒廃地を減らしていく。
- ◆蕎麦・ワイン用葡萄・胡桃による農地の活用化を図り、ワインなどのブランド化を研究しながら6次産業化を推進する。
- ◆若い世代を確保するために、景観に配慮した民間宅地開発、企業誘致を推進する。

～子育てなどの将来目標～

- ◆既存の遊べる場所を活かしながら、たくさんの子どもが集える機会を増やし、子供たちの声が聞こえるようにコミュニケーションづくりを図る。
- ◆地域の交流、子どもからお年寄りまでが集える三区共同のコミュニティセンター建設をめざす。

18-4. 地域のまちづくりイメージ

地域のまちづくりイメージ図（地域の意見を反映してイメージ化した図）

- 標高差を活用した農産物を研究し、就農者の増加を図り、遊休地・荒廃地の減少を図る
- 農地の活用を図り、ブランド化の研究や6次産業の展開を図る
- 若い世代の移住・定住を促進するため、景観に配慮した宅地開発、企業誘致を図る
- 生活道路の安全性やアクセスの向上のための整備、改善 など

